

二〇一六年の二月、インターネットに匿名で投稿された「保育園落ちた日本死ね！」という記事がネットを中心に話題になり、国会でも取り上げられて大きな騒動になりました。日本では今、子供を保育施設に入れたくても定員オーバーで入れられない待機児童問題と、というのがあります。今回のネットの投稿も、子供を保育園に入れられなかったお母さんが、そんな現状の日本社会に対して抗議の気持ちを表して書いたものでした。「日本死ね」という表現が過激だったため反感を抱く人もたくさんいました。同じ境遇の女性を中心に多くの共感を得たわけです。

確かに、「日本死ね」という表現は過激だし、最初に聞いた時は僕も反感を抱きました。僕は日本人なので、「日本死ね」というのは僕にも死ねと言っていることになり、知らない人にもそんなことを言われるとムカつきます。しかし、口では少子化対策や女性の活躍できる社会の推進などと言いながら、実際には子

育てと仕事の両立を妨げるような待機児童問題を解決しなければ、日本はいつか本当に死んでしまえます。ですから、「日本死ね」という表現は、このままだと将来「日本死ぬよ」というメッセージとして受け止めるべきだと思います。

子供ができててもその子供を保育園などに預けられなければ、お母さんは仕事ができません。最近はお父さん達の給料も少なくなつた。そうなので、共働きでなければ生活できません。こうなると、子供を作ったら生活できないという事になり、結婚しても子供を作らない夫婦が増えてしまいます。その結果、子供はいなくなり、日本は死にます。日本の死を防ぐためには、待機児童を無くさねばなりません。話によると、給料や労働条件の悪さから、資格を持っているのに保育士として働いていない潜在保育士が60万人以上もいるそうです。僕は、消費税を上げてもいいの、保育士の給料や労働条件を改善して、と

にかく子供を預けられる人員を増やすべきだ  
と思います。また、同様に税金を使って保育  
園を無料にし、子供を作りやすくすることも  
必要だと思っています。  
日本を死なせないためであれば、消費税が  
上がっても仕方がないと思うので、急いでこ  
の対策を実施してほしいです。